

日時 平成23年 8月29日(月)
13:00~17:45

会場 日本学術会議講堂

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分
(東京都港区六本木7-2 2-3 4)



学術フォーラム

生命科学の進展に伴う

新たなリスクと科学者の役割

【参加費無料】 定員300名 ※定員に達し次第締め切ります。

プログラム

【開会あいさつ】 13:00~13:15

広渡 清吾 日本学術会議会長/専修大学法学部教授

【基調講演】 13:15~14:30

吉倉 廣 日本学術会議連携会員/国立感染研究所名誉所員

マルコム・ダンドー ブラッドフォード大学教授

【セッションⅠ：最近の生命科学の進展と新たなリスク】 14:30~15:30

コーディネーター：春日 文子 日本学術会議会員/国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部室長

報告者1：小安 重夫 慶應義塾大学医学部教授

報告者2：今給黎 学 外務省生物・化学兵器禁止条約室長

報告者3：山村 雅幸 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授

質疑・討論

【セッションⅡ：我が国での取組みと今後の課題】 15:45~16:45

コーディネーター：四ノ宮成祥 防衛医科大学校教授

報告者1：山田 憲彦 航空幕僚監部首席衛生官/前防衛医科大学校防衛医学講座教授

報告者2：加藤 和人 京大大学人文科学研究所/京大大学大学院生命科学研究所准教授

報告者3：渋谷 健司 東京大学大学院医学系研究科教授

質疑・討論

【全体討論】 16:45~17:30

【閉会あいさつ】 17:30~17:45

唐木 英明 日本学術会議副会長/東京大学名誉教授

開催主旨

生命科学におけるデュアルユースの問題は、これまで主として生物化学兵器に関する専門家を中心として議論が行われてきました。しかしながら、近年の生物工学の進展を踏まえれば、研究者が意図していなくとも、研究遂行上の不注意等により意図せずに生命科学の知見や技術が軍事利用されるような事態が発生することも想定されます。

こうした事態の発生を避けるために、デュアルユース問題の専門家だけに限らず広い生命科学分野の専門家による議論を行い、理解を深めるとともに、科学者の役割について考えます。

主催

日本学術会議

協力

外務省、防衛省

後援

文部科学省、厚生労働省

＜お申込み・お問い合わせ先＞

申込フォーム (<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>)

日本学術会議事務局企画課公開講演会担当 TEL:03-3403-6295/FAX:03-3403-